

2014年度

あいち自然再生カレッジ

受講料
無料

『都市と近郊緑地の生物多様性保全』

- 第1回 11月22日(土) 「人間海に浮かぶ島ー都市と近郊の生態系保全」
場所：名古屋大学 講師：肘井 直樹
- 第2回 11月29日(土) 「名古屋の緑地景観の変遷と鳥類相の変化」
場所：名城大学 講師：橋本 啓史
- 第3回 12月 6日(土) 「里山保全活動における学生ボランティアの可能性」
場所：愛知学院大学 講師：村田 尚生／鵜飼 宏成
- 第4回 12月13日(土) 「近郊緑地の保全ーシデコブシの保全生物学ー」
場所：名古屋大学 講師：戸丸 信弘
- 第5回 12月20日(土) 「大学の近くの湿地における生物多様性保全」
場所：愛知工業大学 講師：内田 臣一／八木 明彦／武田 美恵

主催：東部丘陵生態系ネットワーク協議会

事前の申し込みが必要です。詳しくはウラ面をご覧ください。

2014年度 あいち自然再生カレッジ

※ 原則として5回受講していただきます
 ※ 定員50名 先着順受付 受講料無料

『都市と近郊緑地の生物多様性保全』

	講義内容	講師	日時	場所
第1回	人間海に浮かぶ島－都市と近郊の生態系保全 急速に開発の進む都市およびその近郊において、斑状に残された緑地や都市の中に新たに創出された人工生態系は、いずれも生物多様性保全の貴重な拠点の一つである。本講座では、都市とその近郊の緑地の価値を見直し、これからの生物多様性保全のあり方と方策を共に考える。	名古屋大学教授 肘井 直樹	11月22日(土) 10:00-12:00	名古屋大学農学部 第8講義室 交通：地下鉄名城線「名古屋大学」駅下車徒歩約10分
第2回	名古屋の緑地景観の変遷と鳥類相の変化 東部丘陵や名古屋の社寺林の緑は、開発による減少だけでなく、植生も周囲の土地利用も質的に変化してきた。そしてそれは野鳥の分布にも影響を与え、数を減らした種類もいれば、増えた種類もある。変化する名古屋の生物多様性の保全目標を共に考える。	名城大学助教 橋本 啓史	11月29日(土) 10:00-12:00	名城大学天白キャンパス 共通講義棟北306講義室 交通：地下鉄鶴舞線「塩釜口」駅下車徒歩約10分
第3回	里山保全活動における 学生ボランティアの可能性 愛知学院大学日進キャンパス内の自然保護は、学生ボランティアが中心になって行われている。今回はとくに、竹の侵食がはげしい区画の実態と、自然で手つかずのままの池を、多様な生物の生息とそれらの観察ができる場にする環境づくりを紹介する。講義終了後、現地視察を行う。	愛知学院大学准教授 村田 尚生 同 教授 鵜飼 宏成	12月6日(土) 10:00-12:30	愛知学院大学3号館 1階3107教室 (実地見学もあります) 交通：リニモ「古戦場」駅から大学シャトルバス、地下鉄東山線「藤が丘」駅から名鉄バス、または自家用車
第4回	近郊緑地の保全－シデコブシの保全生物学－ シデコブシは東海地方の里山に生育する希少種であり、絶滅が危惧されている。里山保全の象徴的存在であるシデコブシと里山全体の保全のあり方について共に考える。	名古屋大学教授 戸丸 信弘	12月13日(土) 10:00-12:00	名古屋大学農学部 第8講義室 交通：地下鉄名城線「名古屋大学」駅下車徒歩約10分
第5回	大学の近くの湿地における生物多様性保全 名古屋東部丘陵には、東海丘陵要素というこの地域に特徴的な植物の多くが生育する湧水湿地(鈹質土壤湿原)が点在する。愛知工業大学の近くにあるこの種の湿地の1つを紹介し、周辺樹木の伐採を含むその保全策を現地を見学しながら共に考える。	愛知工業大学教授 内田 臣一 同 特任教授 八木 明彦 同 講師 武田 美恵	12月20日(土) 10:00-12:30	愛知工業大学1号館 (実地見学もあります) 交通：リニモ、愛知環状鉄道「八草」駅から徒歩約10分、大学シャトルバス、または自家用車

11月18日(火)までに、E-mailまたはFAXで、下記までお申込みください。
 なお、原則として5回受講していただきますが、定員内であれば講座開始後も受け付けます。

送付先・問い合わせ先： 名古屋大学大学院生命農学研究科 森林保護学研究室内
 「あいち自然再生カレッジ2014」事務局

E-mail: saisei@agr.nagoya-u.ac.jp FAX: 052-789-5518

申込書

フリガナ 氏名	-----		
住所	〒		
E-mail	性別(年齢)	男・女	(歳:記入任意)
電話、FAX	所属等		
連絡事項			